

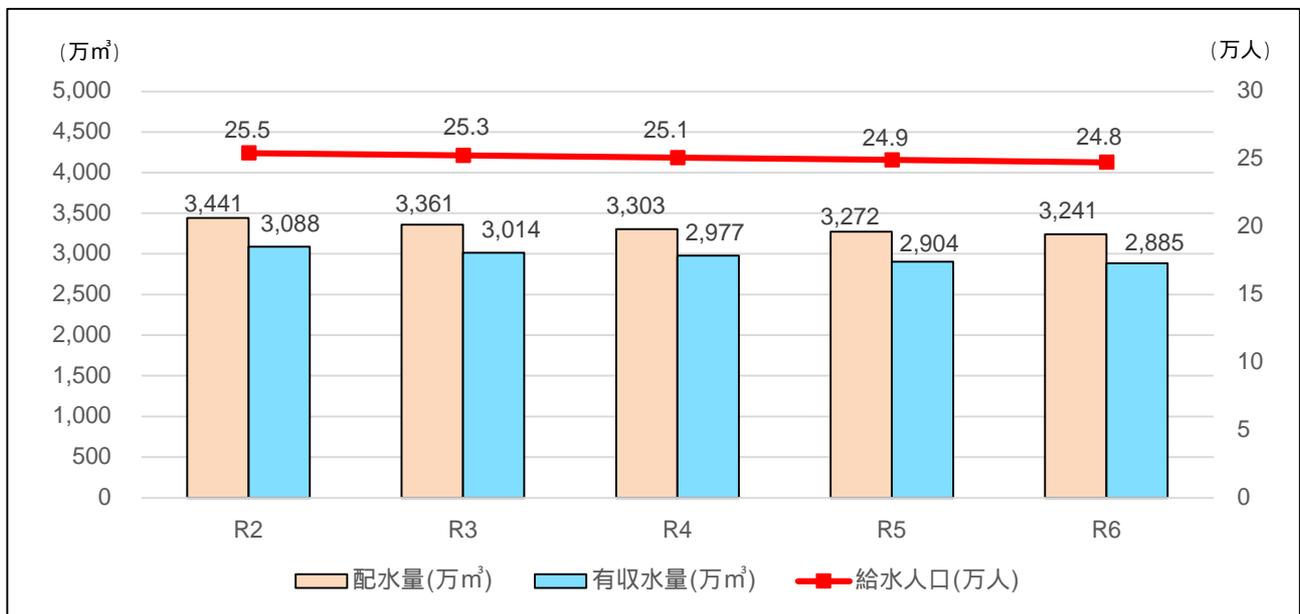
令和6年度福井市水道事業会計決算の概要

1 業務状況

当年度は、老朽管の更新や重要給水施設に供給する管路の耐震化、施設の機器更新を進めました。また、原目配水池更新事業に係る送水管布設工事や川西揚水ポンプ所築造事業に係る用地取得等を行いました。

| | | 令和6年度 | 令和5年度 | 対前年比 | |
|-----------|-----------------|---------|---------|-------|-----|
| | | | | 増減 | 増減率 |
| 給水人口 (A) | 人 | 247,668 | 249,334 | 1,666 | 0.7 |
| 給水柱数 (B) | 柱 | 109,467 | 108,740 | 727 | 0.7 |
| 配水量 (C) | 千m ³ | 32,412 | 32,724 | 312 | 1.0 |
| 有収水量 (D) | 千m ³ | 28,855 | 29,042 | 187 | 0.6 |
| 有収率 (D/C) | % | 89.0 | 88.7 | 0.3 | - |

[給水人口及び配水量・有収水量の推移]



○人口減少により、給水人口は年々減少しています。

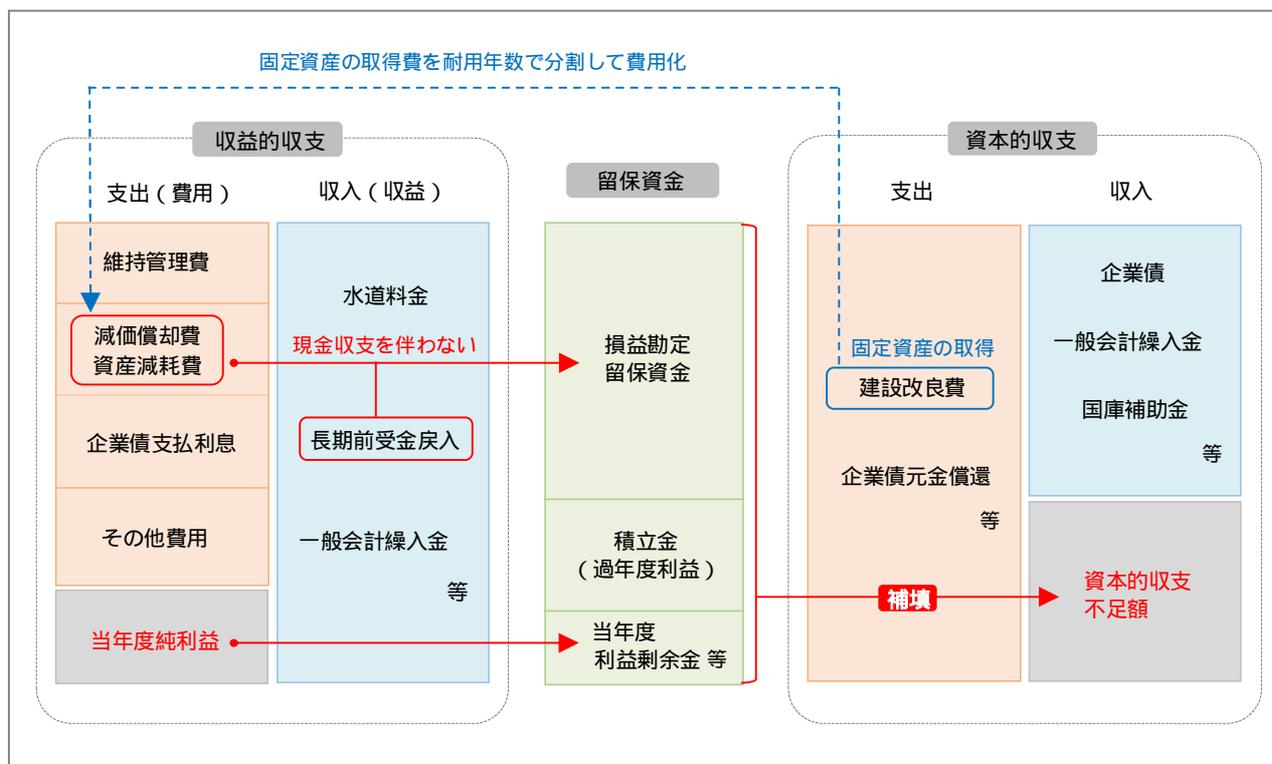
○給水人口の減少や節水機器の普及等に伴い、配水量及び有収水量も減少が続いています。

2 収支の状況

【公営企業会計の収支】

- 公営企業会計の収入と支出は、「収益的収支」と「資本的収支」の2つに区分されます。
- 収益的収支は、水道料金収入や維持管理費など、経営活動のなかで発生する1事業年度における収入（収益）と支出（費用）です。決算書の損益計算書にあたる部分で、収入と支出の差額が当年度の経営成績（純利益又は損失）を表します。
- 資本的収支は、1事業年度を超えて長期間にわたり使用される施設の新設・改築等の建設改良費や、その財源となる補助金収入、企業債の発行・償還など、主に建設投資に係る収入と支出です。
- 1事業年度を超えて使用される施設等の整備費用（固定資産の取得費）は、資本的支出に計上されるとともに、収益的支出において、当該施設等の耐用年数に応じて各年度に分割して費用計上（減価償却費）されます。
- 一般的に、収益的収支で得た資金で、資本的収支の赤字（資本的収支不足額）を補填する必要があります。

【収益的収支と資本的収支の関係イメージ】



【減価償却費】固定資産の取得費を、耐用年数に応じて各年度に分割して計上する費用（実際の現金支出はない）

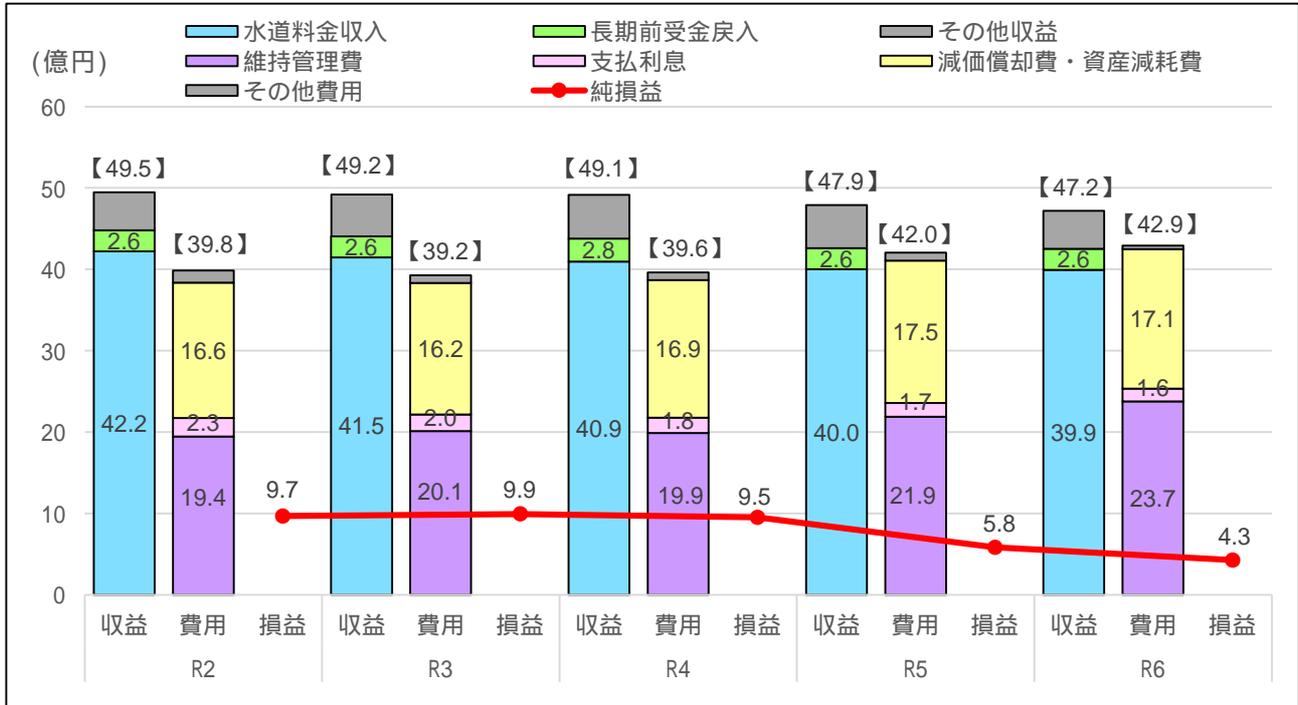
【長期前受金戻入】固定資産取得の財源として得た補助金等を、減価償却に対応して各年度に分割して計上する収益（実際の現金収入はない）

【損益勘定留保資金】収益的収支における現金支出を伴わない費用から、現金収入を伴わない収益を差し引いた額。この分は実際の現金支出はなく、企業内に留保されている。

【収益的収支の状況】

収益的収入及び支出の直近5年間の推移は以下のとおりです。

【収益的収入及び支出の推移】（税抜）



※記載金額は、表示金額未満で四捨五入しているため、合計や差引の金額は一致しない場合があります。

収入（収益）

- 主なものは、水道料金収入、長期前受金戻入です。
- 収益の根幹である水道料金収入は、人口減少や節水機器の普及等により、減少が続いています。

支出（費用）

- 主なものは、水道施設の維持管理費、企業債の支払利息、減価償却費・資産減耗費です。
- 光熱費や資材等の高騰、労務費の上昇などにより、維持管理費が近年増加しています。

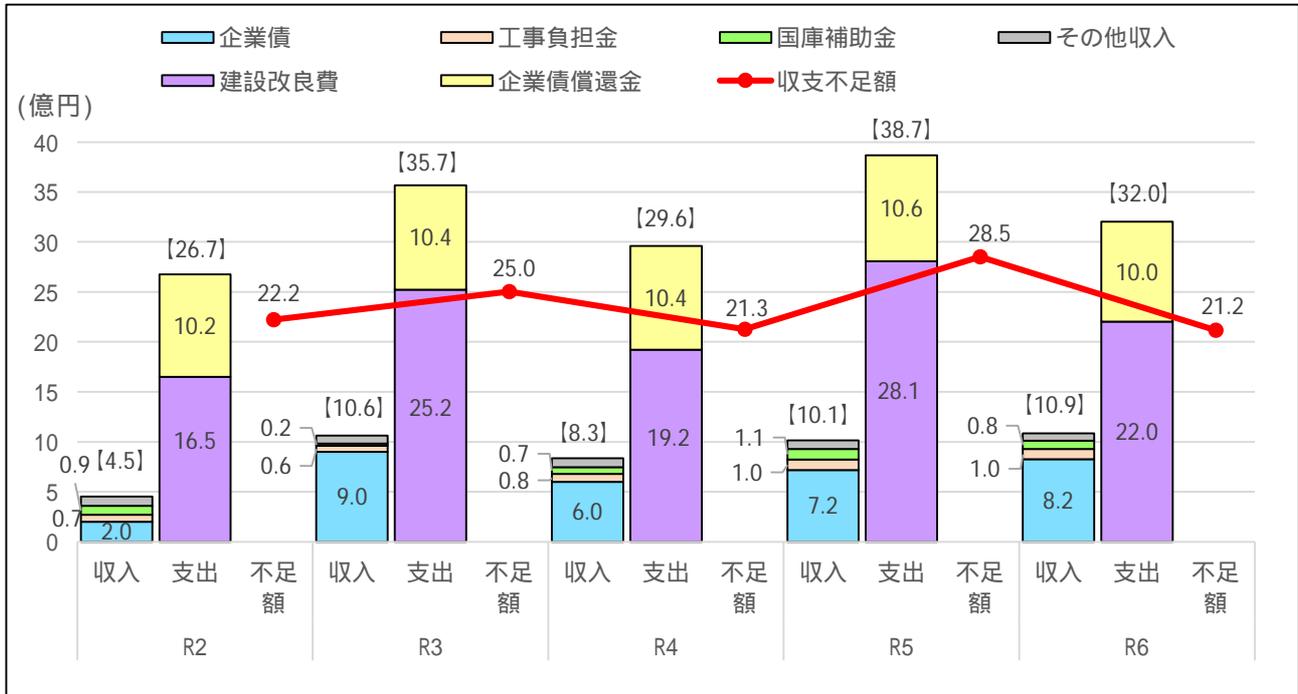
収支差額（損益）

- 収益が減少する中、費用が増加していることから、純利益は減少が続いています。
- 今後も、人口減少等に伴い水道料金収入は減少が見込まれます。一方、費用は増加が続くと考えられることから、純利益は今後更に減少が見込まれます。

【資本的収支の状況】

資本的収入及び支出の直近5年間の推移は以下のとおりです。

【資本的収入及び支出の推移】（税込）



収入

○主なものは、建設改良費（水道施設の新設・改築等に係る費用）の財源である企業債、工事負担金及び国庫補助金です。

支出

○主なものは、建設改良費及び企業債償還金です。

○第8次整備事業（重要給水施設配水管路耐震化工事等）が令和7年度に繰越しとなったことで、令和6年度の建設改良費は前年度と比べると約22%減少しました。

収支不足額

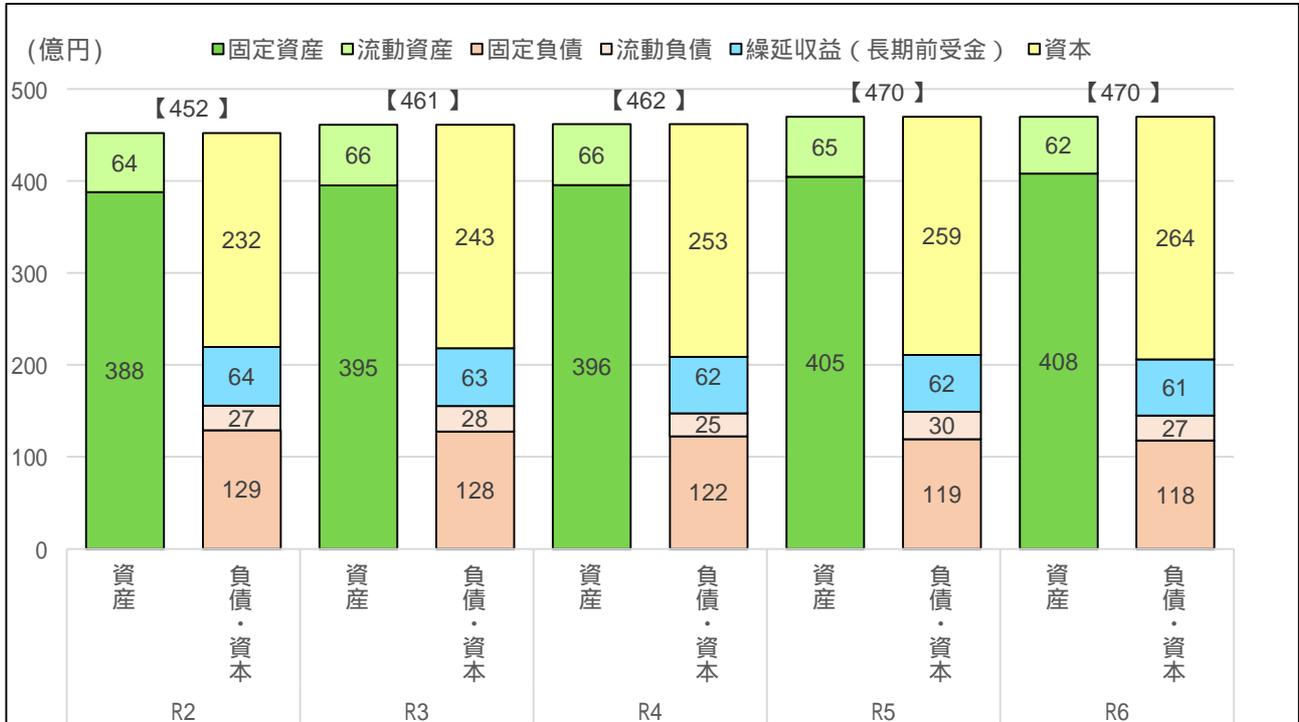
○建設改良費が増えると、収支不足額も多くなります。

○今後、老朽化した施設の更新や耐震化（原目配水池更新事業や九頭竜浄水施設更新事業等）を進める必要があり、建設改良費の増加に伴って、収支不足額が増加していく見込みです。

3 財政状況

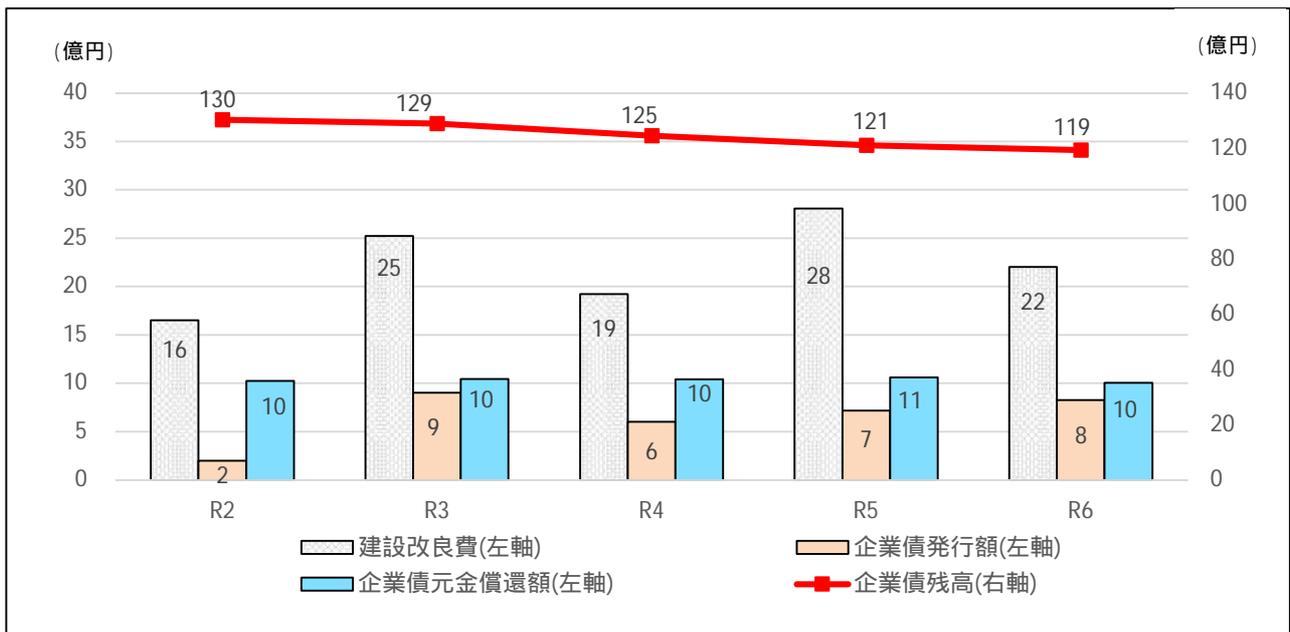
資産や負債、資本の直近5年間の推移は以下のとおりです。

[資産、負債等の推移]



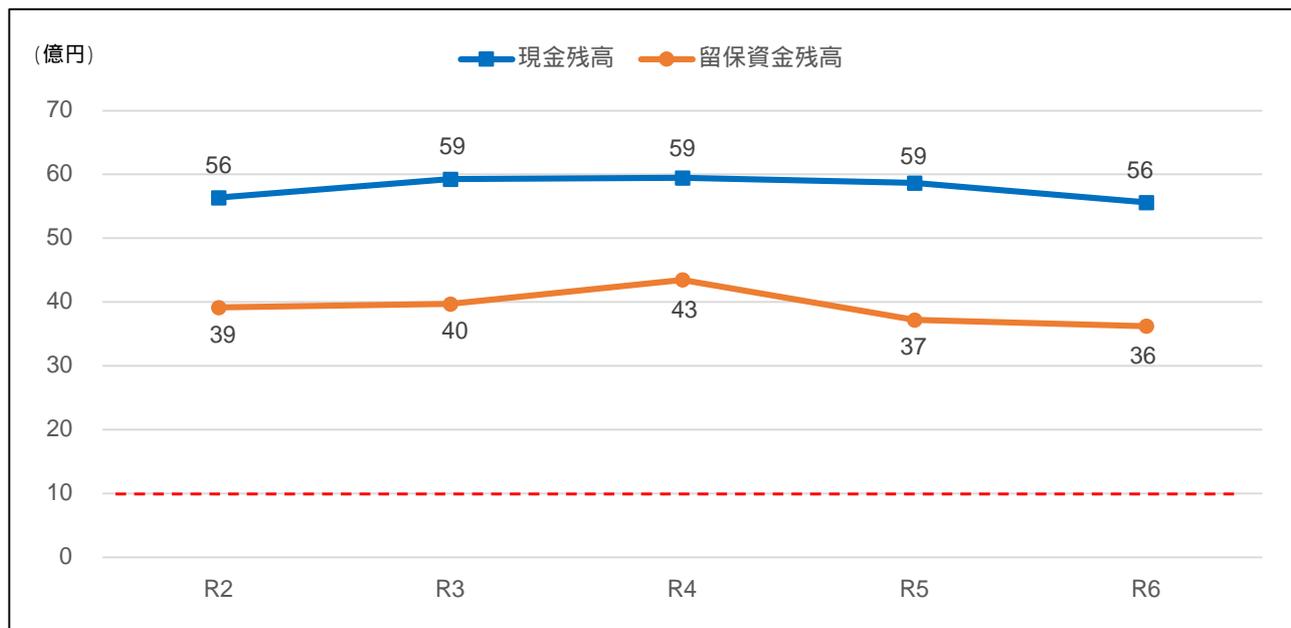
※記載金額は、表示金額未満で四捨五入しているため、合計や差引の金額は一致しない場合があります。

[企業債残高の推移]



○企業債残高は減少が続いていますが、近年、企業債の発行額は増加傾向にあります。

[資金残高の推移]



【留保資金】本市では、流動資産（現金預金や未収金等）から、借入金以外の負債（未払金や預り金、引当金等）を除いた、今後の事業運営に使用可能な実質的な資金の残高を、留保資金残高として記載しています。（ただし、この中には災害準備積立金のように、特定の事象が発生した場合に限り取り崩し可能な資金も含まれているため、即時に使用可能な資金のみを表したものではありません。）

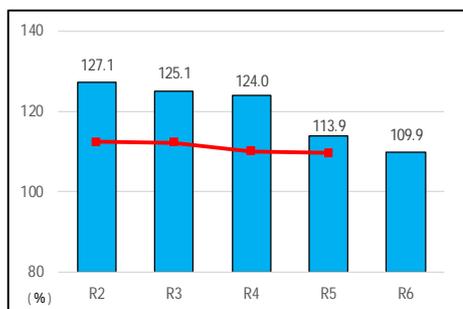
- 留保資金が不足すると、事業が継続できなくなります。本市水道事業では、安定した事業運営のためには、10億円以上の留保資金が必要と考えています。
- これまでは30億円を上回る水準で推移していますが、今後は、物価や金利の上昇などによる経営状況の悪化や、老朽化が進む施設の更新に多額の費用が見込まれることから、留保資金が急激に減少していくことが懸念されます。

4 経営指標

【凡例】 ■ 福井市 —■— 類似団体平均値
 (類似団体区分：給水人口規模 15 万人以上 30 万人未満)

経営の健全性

[経常収支比率]



維持管理費等の経常費用を、水道料金や繰入金等の収益でどの程度賄えているかを示す指標。(100%以上が望ましい)

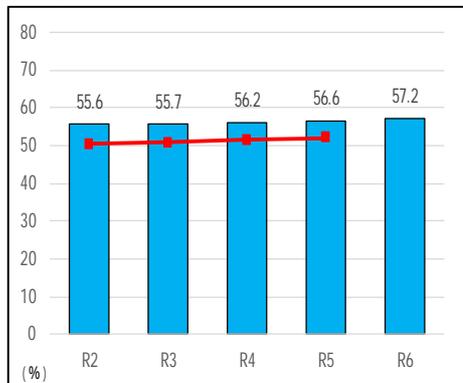
[料金回収率]



給水に係る費用を、どの程度水道料金で賄えているかを示す指標。(100%以上が望ましい)

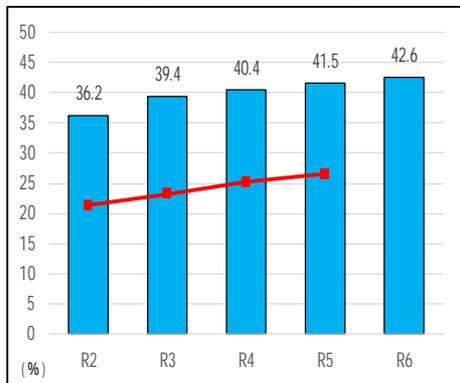
施設の老朽化の状況

[有形固定資産減価償却率]



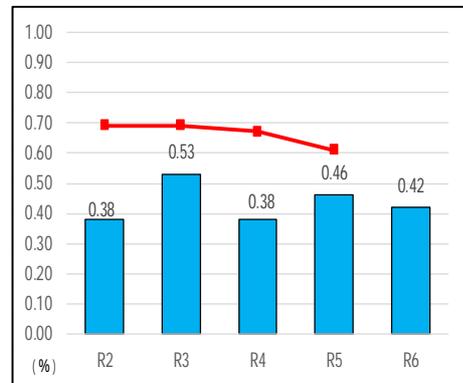
有形固定資産(償却対象資産のみ)の減価償却がどの程度進んでいるかを示す指標。

[管路経年化率]



法定耐用年数を超えた管路延長の割合を示す指標。

[管路更新率]



当年度に更新した管路延長の割合を示す指標。

- 『経常収支比率』は、健全経営の目安とされる 100%を上回っています。
- 『料金回収率』は、これまで 100%を上回っていましたが、給水に係る費用の増加などにより当年度は 100%を下回りました。
- 『有形固定資産減価償却率』及び『管路経年化率』はいずれも類似団体平均を上回っており、施設の老朽化が進んでいる状況です。一方、当年度に更新した管路延長の割合を示す『管路更新率』は低い状況にあり、計画的に施設の更新を進めていく必要があります。